

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	01	03	104060	学力向上推進事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-2 学校教育の充実				
	施策	1 学力・体力の向上				
目的	児童・生徒の学力向上を図るため、きめ細かな指導の充実と教師の資質向上に資する事業を行う。					
対象	児童・生徒及び教員					
意図	児童に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に修得させる。 教師に指導力・授業力を身につけさせる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
<input type="checkbox"/> はなまき授業サポーター 児童の学力を向上させるための授業サポーターの配置 8人配置（国語・数学） <input type="checkbox"/> 中学サポーター 生徒の学力を向上させるためのサポーターの配置 3人配置（数学） <input type="checkbox"/> 授業力向上支援事業 外部講師による模範授業・講義の実施 小学校は、国語及び算数を基本とし、毎年度1教科を実施する。 中学校は、国語・社会・数学・理科・英語を基本とし、毎年度2教科を実施する。 <input type="checkbox"/> 中学2年生を対象とした学習定着ワーク「アクションシート」の実施。						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		補助・助成		
事業協力・協定		委託				
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	少人数指導を受ける学級数	学級	計画	40	40	
			実績	48	52	
②	研修会の実施回数	回	計画	3	3	
			実績	3	2	
③	研修会への参加教員数（小中学校）	人	計画	75	45	
			実績	76	75	
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	学習定着度状況調査の到達度（小学校）	%	目標	73.0	73.0	
			実績	70.3	67.1	
②	学習定着度状況調査の到達度（中学校）	%	目標	63.0	63.0	
			実績	65.1	53.6	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	<input type="radio"/> 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
児童生徒の学力は県と同等以上となっており、改善傾向にある。しかし、県の学力調査問題が難化したことにより、成果指標の実績値は昨年度の実績値や今年度の目標値を下回った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学力向上は本市の教育課題の一つであり、本事業はその課題解決に大きく役立っている。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	サポーターの増員を図ることにより、さらに少人数指導の充実が図られる余地がある。 外部講師による模範授業等から学んだ内容を、教師が自らの授業に生かしていくことで、児童生徒の学習理解度が高まる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	授業サポーター及び中学サポーターに要する人件費及び学力向上支援事業の講師の謝金・旅費であり削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	国・県による少人数指導加配と組み合わせて適正な配置を行っている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
人数の多い学級に授業サポーターを配置することにより、国語と算数の少人数指導が充実し、個別の児童に対応することが可能となったことで、基礎・基本の定着が図られた。また、授業力向上支援事業により、外部講師による授業および講義を行うことで、教員の授業力向上が図られている。		

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	10	01	03	104060	学力向上推進事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		11,818	11,896		78
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	11,818	11,896		78

事業期間	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-------	------	-----------------

部経営方針における目標

夢と希望をもち、たくましく生きぬく子ども達を育む学校教育の充実

事業開始の背景・経緯

児童生徒の学力向上を図るためには、少人数指導によるきめ細かな指導の充実と、教師の授業力及び指導力の向上が必要であると考え、この事業を開始した。

事業概要

- はなまき授業サポーター
児童の学力を向上させるための授業サポーターの配置 8人配置 (国語・数学)
- 中学サポーター
生徒の学力を向上させるためのサポーターの配置 3人配置 (数学)
- 授業力向上支援事業
外部講師による模範授業・講義の実施
小学校は、国語及び算数を基本とし、毎年度1教科を実施する。
中学校は、国語・社会・数学・理科・英語を基本とし、毎年度2教科を実施する。
- 中学2年生を対象とした学習定着ワーク「アクションシート」の実施。

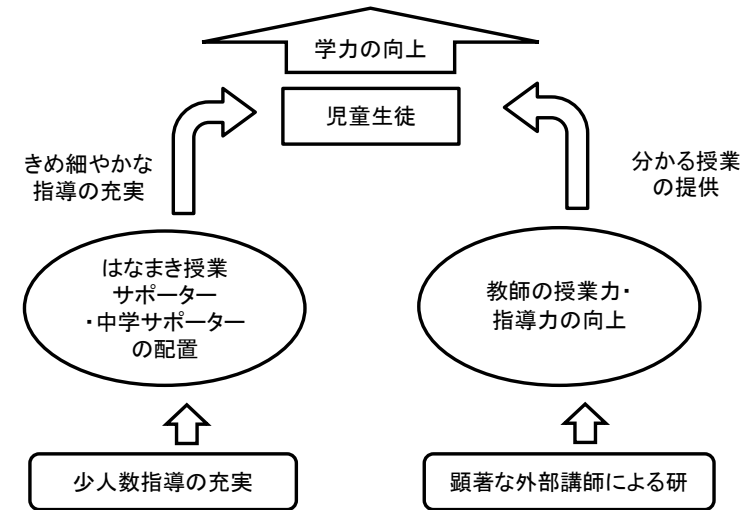
事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

- 国・県の少人数加配と本事業の組み合わせで全ての30人超学級に配置することが望ましいが、現在の人数では対応が難しい状況にあることから、各校の状況を鑑みながら、より効果的な配置に努めていく。
- 学習定着度調査の状況を判断しながら、中学サポーターをより効果的に配置するよう努めていく。

担当部署 部名 教育部 課名 小中学校課 担当係長 佐々木健一 内線 9-30-338

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



- 学力向上支援事業費 11,896千円
- 授業サポーター人件費 7,795千円
- 中学サポーター人件費 3,360千円
- 授業力向上支援事業費 196千円
(講師報償費 75千円、講師旅費91千円、消耗品費30千円)
- 学習定着ワーク「アクションシート」 545千円
@600円×908部 (中学2年生880人+予備)